◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆ 愛媛県立図書館 読書会協力図書

新規受入セットのご紹介(一般向け) 平成 30 年版目録掲載

2 歴史の旅・地理の旅

|292||小倉昌男 祈りと経営

森健著 小学館 2016年 270p

2005 年に他界したヤマト運輸の小倉昌男。郵便以外の物流インフラを日本で初めて作り、規制緩和のため霞が関の官公庁と闘うような強い名経営者の顔を持つ反面、敬虔なカトリックであり、弱い立場の者への眼差しを生涯持ち続けた、無欲な男の一生を熱く描く。第22回小学館ノンフィクション大賞受賞。

293 小林カツ代伝 私が死んでもレシピは残る

中原一歩著 文藝春秋 2017 年 254p

「小林カツ代は天才でした。」と、料理専門の編集者に言わしめる「家庭料理のカリスマ」の波乱万丈の生涯。新婚当時は味噌汁も作れなかった主婦が、いかにして戦後日本を代表する料理研究家になったのか。家庭料理にこだわり、味を追求してレシピを作り、250 冊以上の本にまとめた。仕事と家庭の両面から小林カツ代の実像に迫る。

4 自然をみつめる

476 鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。

川上和人著 新潮社 2017年 221p

鳥類学者に必要なのはとにかく体力。火山の溶岩、耳に 飛び込む巨大蛾、襲い来るウツボと闘う。また、空飛ぶカ タツムリを想像しながら、ネズミ退治に悪戦苦闘。鳥類学 者の知られざる毎日は、命がけの連続だが、鳥類や自然 に対する愛情を感じることができる。次から次へとギャグ が満載の文章に、思わず吹き出すこと間違いなし。

6 産業関係

639 羊飼いの暮らし

ジェイムス・リーパンクス著 早川書房 2017年 385p

イギリスの湖水地方で羊飼いを営む家に生まれ、名門 大学で学んだ後、羊飼いの暮らしに戻った著者が、半 生を振り返って綴った手記。何世代にもわたって繰り返 されてきた伝統的な羊飼いの一年の仕事や、湖水地 方の人々の暮らしが、美しくも過酷な自然の描写ととも に丁寧に綴られている。

7 心のうるおい(趣味・芸術・スポーツ)

750 美しいものを 花森安治のちいさな絵と言葉集

花森安治画 暮しの手帖社 2017年 143p

慈愛に満ちた観察眼で、身近なものに「美しさ」を見出した花森安治。さまざまなジャンルの誌面を彩った花森の挿画 500 点余りと、暮らしの美学に触れる言葉を収録している。「必要なものは美しい。」自らも編集者として、アーティストとして、戦争で失われてしまった「あたりまえの暮らし」の復興への願いが込められている。

9 詩歌・随筆・記録・外国文学

9394 狂うひと「死の棘」の妻・島尾ミホ

梯久美子著 新潮社 2016 年 666p

妻ミホとの葛藤の日々を描いた、島尾敏雄の私小説「死の棘」。著者は、多数の関係者にインタビューを繰り返し、膨大な未発表資料を調査する。島尾夫妻の息子・伸三氏の言葉「きれいごとにはしないでくださいね」に応え、「死の棘」の謎を解き明かした傑作評伝。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆ 愛媛県立図書館 読書会協力図書 新規受入セットのご紹介(一般向け) 平成 30 年版目録掲載

9395 子規の音

森 まゆみ著 新潮社 2017年 393p

子規の暮らした東京・根岸近辺を深く愛し、子規の句によって明治・東京の街の音を聞く著者による、味わい深い評伝。身代を食いつぶすほどの旅行好きだった子規の足跡を実際にたどり、現在の姿も描く。これまで紹介されてきた漱石ほか男性たちとの交友だけでなく、隣人一家の妻子や虚子・碧梧桐の妻たちとの交流も活写する。子規の新たな一面に出会える一冊。

9396 週末介護

岸本葉子著 晶文社 2016年 317p

高齢の父は穏やかではあるが認知症。文筆家である著者が振り返る 5 年間の家族介護の日々。姉兄任せにしていた父の面倒を家族で分担し、著者は週末だけ泊まり込んで父を看る。仕事の両立、兄弟との意見調整、緩やかに老いていく親の姿。ほとんどの人にとって初めての経験である介護に試行錯誤しつつ、「介護は愛情ではなく技術」と飄々と綴ったエッセイ。

9397 ヒマ道楽

坪内稔典著 岩波書店 2016 年 9,206p

俳人「ねんてん先生」のエッセイ集。暇つぶしに夢中になるのは、それがなんであれ、素敵だ。通勤電車でぼんやりしていると、得をしている気分になる。ヒマを肯定的、積極的にとらえて、楽しもう。言葉と戯れる日常生活をユーモラスに描く、『モーロクのすすめ』の続編。

9398 ユナイテッド・ステイツ・オブ・ジャパン

ピーター・トライアス著 早川書房 2016年 375p

第二次世界大戦で勝利した日本は、アメリカ西海岸を統治して「日本合衆国(USJ/ユナイテッド・ステイツ・オブ・ジャパン)」となっていた。特別高等警察に強要され、帝国陸軍検閲局の石村大尉は、逃亡した将軍を捜索することになる。将軍には、反日アメリカ人のテロ組織に協力している容疑がかけられていた。言論統制された監視社会を描くSF。

F 小説

F575 暗幕のゲルニカ

原田マハ著 新潮社 2016年 357p

反戦のシンボル、ピカソの「ゲルニカ」をめぐる物語。 2003年、国連本部に飾られていた「ゲルニカ」のタペスト リーが暗幕に覆われた。9.11テロ後のニューヨークで「ゲ ルニカ」展示を実現しようと奮闘する揺子の物語と、第 二次大戦前のパリでの「ゲルニカ」誕生秘話が交差す る、アートサスペンス。
